

### Ⅲ－４ 介護支援専門員実務研修受講試験並びに実務研修・現任研修等 事業報告

介護支援専門員の養成のため、介護支援専門員実務研修受講試験、実務研修、介護支援専門員研修（実務従事者基礎研修、専門研修、更新研修、再研修）主任介護支援専門員研修を実施した。

#### １ 介護支援専門員実務研修受講試験の実施

- (１) 試験日時 平成26年10月26日（日） 午前10時から12時まで
- (２) 試験実施会場 秋田ノースアジア大学、秋田県立大学本荘キャンパス
- (３) 試験実施結果 受験者数 2,106名 合格者 341名（合格率16.2%）

平成21年度から平成26年度までの合格者及びその内訳は次のようになっている。

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
受験者総数（人）	1,834	1,816	1,887	1,975	1,884	2,106
合格者（人）	388	288	235	310	257	341
合格率（%）	21.2	15.9	12.5	15.7	13.6	16.2
全国平均（%）	(23.6)	(20.5)	(15.3)	(19.0)	(15.5)	(19.2)

合格者累計 6,366人

①職種別				
	23年度	24年度	25年度	26年度
医師	1	0	0	1
歯科医師	0	1	0	0
薬剤師	2	1	0	3
保健師	1	5	3	1
助産師	1	2	0	1
看護師	16	15	6	15
准看護師	4	4	2	6
理学療法士	1	2	3	3
作業療法士	1	3	2	0
社会福祉士	6	16	15	14
介護福祉士	181	237	208	268
視能訓練士	0	0	0	0
義肢装具士	0	0	0	0
歯科衛生士	1	2	4	5
言語聴覚士	1	1	0	0
あん摩マッサージ指圧師 はり師・きゅう師	0	0	0	2
柔道整復師	0	0	1	0
栄養士 (管理栄養士を含む)	3	1	2	3
精神保健福祉士	0	2	1	4
相談援助業務	8	11	3	10
介護等業務	8	7	7	5
計	235	310	257	341

(人)

②地域別（勤務先による）				
	23年	24年	25年	26年
県北	50	69	54	73
中央	113	143	116	178
県南	72	98	87	90
計	235	310	257	341

(人)

③性別				
	23年	24年	25年	26年
男性	71	93	66	104
女性	164	217	191	237
計	235	310	257	341

(人)

④年代別				
	23年	24年	25年	26年
20代	48	63	47	69
30代	101	119	91	126
40代	52	84	67	89
50代	28	41	49	54
60代	6	3	3	3
70代	0	0	0	0
計	235	310	257	341

(人)

## 2 介護支援専門員実務研修の実施

### (1) 実務研修の目的

介護保険制度の適切かつ円滑な運営に資するため、必要な知識、技能を有する介護支援専門員の養成を図ることを目的として実施した。

### (2) 実施主体

秋田県知事が指定した公益財団法人秋田県長寿社会振興財団

### (3) 受講対象者（347名）

平成26年度（第17回）介護支援専門員実務研修受講試験合格者（341名）

平成25年度（第16回）試験合格者のうち延期願いが提出されていたもの（6名）

### (4) 研修期間、回数、期日等

	期 間	組	期 日	会 場
前期研修	3日間	1組 2組 3組	平成27年1月 9日（金）～ 11日（日） 平成27年1月15日（木）～ 17日（土） 平成27年1月21日（水）～ 23日（金）	中央シルバー エリア
後期研修	4日間	1組 2組 3組	平成27年2月12日（木）～ 15日（日） 平成27年2月18日（水）～ 21日（土） 平成27年2月27日（金）～ 28日（土） 3月 6日（金）～ 7日（土）	中央シルバー エリア

### (5) 研 修 内 容

前期3日、後期4日の計45時間の研修を実施。

前期研修と後期研修の間に、要介護認定のための訪問調査や課題分析・居宅サービス計画原案作成について実習を行った。

国から示されたガイドラインを基に研修受講時の自己評価を実施した。

[実務研修の主な内容]

- ① 介護保険制度の基本理念、介護支援専門員の基本姿勢等
- ② 介護支援サービスの基本、基礎技術・展開技術、要介護認定等の基礎
- ③ 対人援助技術、課題分析・居宅サービス計画に関する専門的知識及び技術
- ④ 地域包括支援センターの概要、介護予防給付マネジメント

### (6) 講 師

介護支援専門員指導者及び県内ケアマネジメントリーダー並びに主任介護支援専門員等・県担当者

### (7) 修了証明書の交付等

全課程を修了した受講者に対し、修了証明書が交付された。（341名）

秋田県内では、この17年間で6,359名が実務研修を修了している。

1組 1/ 9～11  
 2組 1/15～17  
 3組 1/21～23

平成26年度 秋田県介護支援専門員実務研修 **前期** 研修日程

9:30		10:00	10:15	11:15		12:15	13:15	15:15		17:15	
1 日 目	受付	オリエンテーション 開講挨拶	介護保険制度の 理念と介護支援 専門員 (講義) 【県担当者】	介護保険制度の理念 と介護支援専門員 (講義) 【介護支援専門員 指導者等】	昼食 休憩	介護支援サービスの基本 (ケアマネジメントの基本) (講義) 【介護支援専門員指導者等】	要介護認定等の基礎 (講義) 【県担当者】				
9:30		10:30		12:30		13:30		17:30			
2 日 目	受付及び相談と契約 (講義) 【介護支援専門員 指導者等】		アセスメント、ニーズの把握方 法 (講義) 【介護支援専門員指導者等】		昼食 休憩	アセスメント、ニーズの把握方法 (演習) 【介護支援専門員指導者等】					
9:30		11:30		12:30		13:30		16:30		17:30	
3 日 目	居宅サービス計画等の作成 (講義) 【介護支援専門員指導者等】		居宅サービス計画等の 作成 (演習) 【介護支援専門員 指導者等】		昼食 休憩	居宅サービス計画等の作成 (演習) 【介護支援専門員指導者等】		実習 オリエンテーション			

# 平成26年度 秋田県介護支援専門員実務研修 後期 研修日程

1組 2/12～15  
 2組 2/18～21  
 3組 2/27～28  
 3/ 6～ 7

9:30 10:00		12:00 13:00		17:00	
1 日 目	受付	地域包括支援センターの概要 (講義)  【介護予防支援指導者修了者】	昼食 休憩	相談面接技術の理解 (講義)  【学識経験者等】	
9:30		12:30 13:30		17:30	
2 日 目		介護予防支援 (ケアマネジメント) (講義)  【介護予防支援指導者修了者】	昼食 休憩	介護予防支援 (ケアマネジメント) (演習)  【介護予防支援指導者修了者】	
9:30		12:30 13:30		16:30	
3 日 目		アセスメント、居宅サービス計画作成演習  【介護支援専門員指導者等】	昼食 休憩	アセスメント、 居宅サービス計画作成演習  【介護支援専門員指導者等】	
9:30		12:30 13:30		15:30 16:30	
4 日 目		チームアプローチ演習 (演習)  【介護支援専門員指導者等】	昼食 休憩	モニタリングの方法 (講義)  【介護支援専門員 指導者等】	意見交換  講 評  修了式 修了証明書交付 閉講挨拶

### 3 介護支援専門員研修（実務従事者基礎研修、専門研修、更新研修、再研修）の実施

#### (1) 介護支援専門員実務従事者基礎研修

##### ア 目的

介護支援専門員として一定の実務を経験した後に、実務従事者として必要な技術・技能の研鑽を図ることで、介護支援専門員の実務能力の向上を図ることを目的として実施した。

##### イ 実施主催

公益財団法人 秋田県長寿社会振興財団（LL財団）

##### ウ 対象者

介護支援専門員としての実務に携わっている者で実務就業後1年未満の方全員。

##### エ 研修期日・会場

実務従事者基礎研修(4日間)

組	期 日	会 場	受講者数
1組	平成26年 7月 1日 (火)	中央シルバーエリア	98名
	7月 2日 (水)		
	7月 3日 (木)		
	7月 4日 (金)		
2組	平成26年10月 9日 (木)	中央シルバーエリア	59名
	10月10日 (金)		
	10月11日 (土)		
	10月12日 (日)		

##### オ 研修内容

	研修内容	研修目的
1日目	ケアマネジメントとそれを担う介護支援専門員の倫理	机上の実務研修内容を就業後の実践に照らして確認することにより重要な倫理を会得する。
	対人援助技術	利用者の権利擁護の視点に立ち、自立支援を図る上で必要なアセスメントを行うための相談面接技術の向上を図る。
2日目	ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方	ケアマネジメントの各プロセスの担う役割、目的を再確認するとともに重要性を理解する。また、各自の実践を省みることにより問題点・課題を認識する。
	ケアマネジメント点検演習	自ら担当している事例を持ち寄り、アセスメントの手法や策定したケアプランについて点検し、問題点・課題を明確にして改善方策を見出す。
3日目	ケアマネジメント点検演習	自ら担当している事例のアセスメントの手法や策定したケアプランについて点検し、問題点・課題を明確にして改善方策を見出す。
4日目	ケアマネジメント演習講評	演習の結果を踏まえ今後の改善点を考察する。
	研修を振り返っての意見交換、ネットワーク作り	ケアマネジメントの原則に沿った実践を行うための決意を醸成する。

カ 指導講師  
介護支援専門員指導者、主任介護支援専門員、ケアマネジメントリーダー等

キ 受講者数  
1組 98名(修了者 96名に修了証明書を交付)  
2組 59名(修了者 57名に修了証明書を交付)

(2) 介護支援専門員専門研修(専門研修課程Ⅰ・専門研修課程Ⅱ)並びに介護支援専門員更新研修(実務経験者(前期・後期)、実務未経験者)及び介護支援専門員再研修

ア 介護支援専門員専門研修(専門研修課程Ⅰ・専門研修課程Ⅱ)  
介護支援専門員更新研修(実務経験者(前期・後期))

(ア) 目的

(専門研修)

現任の介護支援専門員に対して、一定の実務経験をもとに、必要に応じた専門知識、技能の習得を図ることにより、その専門性を高め、もって介護支援専門員の資質向上を図ることを目的として実施した。

(更新研修)

介護支援専門員証に有効期限が付され、更新時に研修の受講を課すことにより、定期的な研修受講の機会を確保し、介護支援専門員として必要な知識及び技術の向上を図り、能力の保持を図ることを目的として実施した。

(イ) 実施主催

公益財団法人秋田県長寿社会振興財団(LL財団)

(ウ) 対象者

(専門研修)

専門研修課程Ⅰ 原則として、介護支援専門員としての実務に従事している者であって、就業後6ヶ月以上の方

専門研修課程Ⅱ 原則として、介護支援専門員としての実務に従事している者であって、就業後3年以上の方

(更新研修)

a 研修対象者は、介護支援専門員証の交付を受けてから、その有効期間が満了するまでに介護支援専門員として実務に従事した者又は従事していた経験を有する者(以下「実務経験者」という)で、介護支援専門員証の有効期間が1年以内に満了する者。なお、介護支援専門員としての経験の多寡は問わない。

b 専門研修課程Ⅰ及びⅡと同様の内容で構成され、必修課目と選択課目を合わせ、計53時間実施される。

## (エ) 研修期日・会場

## ◆専門研修課程Ⅰ・更新研修前期(6日間)

組	期 日	会 場	受講者数	
			専 門	更 新
1組	平成26年 5月29日(木)～31日(土) 6月12日(木)～14日(土)	中央シルバー エリア	59名	
				45名
2組	平成26年 5月29日(木)～31日(土) 6月12日(木)～14日(土)	中央シルバー エリア	68名	
				29名

## ◆専門研修課程Ⅱ・更新研修後期(3日間)

組	期 日	会 場	受講者数	
			専 門	更 新
1組	平成26年 6月 6日(金)～ 8日(日)	中央シルバー エリア	55名	
				62名
2組	平成26年7月31日(木)～8月2日(土)	中央シルバー エリア	55名	
				68名
3組	平成26年 8月28日(木)～30日(土)	中央シルバー エリア	52名	
				62名
4組	平成26年 9月10日(水)～12日(金)	中央シルバー エリア	61名	
				50名

## (オ) 研修内容

## ◆専門研修課程Ⅰ・更新研修前期

研修内容		研修事項
1 日 目	介護保険制度論	介護保険制度に対する理解・認識を深める。
	ケアマネジメントとそれを担う介護支援専門員の倫理	実際の業務に照らして確認することにより重要な倫理を会得する。
	ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方	ケアマネジメントの各プロセスの担う役割、目的を再認識するとともに重要性を理解する。また、各自の実践を省みることにより問題点・改善点を認識して改善方策を導き出す。
2 日 目	対人個別援助技術 ソーシャルケースワーク (講義)	対人援助における面接・コミュニケーション技法のレベルアップを図る。
	対人個別援助技術 ソーシャルケースワーク (演習)	対人援助における面接・コミュニケーション技法のレベルアップを図る。

3 日 目	対人個別援助技術 ソーシャルケースワーク (演習)	対人援助における面接・コミュニケーション 技法のレベルアップを図る。
-------------	---------------------------------	---------------------------------------

選択科目①～④（これらの中から3つ以上選択する）

研修内容		研修事項
3 日 目	選択科目① サービスの活用と連携 「訪問介護・訪問入浴」	自立支援を目的とする予防給付及び介護給付 サービスにおける内容を再認識し、特色や実 態を把握する。
4 日 目	選択科目② サービスの活用と連携 「介護保険施設・認知症 対応型共同生活介護・特定 施設入居者生活介護」	サービス内容を再確認するとともに、自立支 援に即した適正なサービスの活用方法と連携 の方法を学ぶ。
	選択科目③ サービスの活用と連携 「訪問看護・訪問リハビリ テーション」	自立支援を目的とする予防給付及び介護給付 サービスにおける内容を再認識し、特色や実 態を把握する。
5 日 目	選択科目④ サービスの活用と連携 「通所介護・通所リハビリ テーション」	サービス内容を再確認するとともに、自立支 援に即した適正なサービスの活用方法と連携 の方法を学ぶ。

必修科目（すべて受講しなければならない）

研修内容		研修事項
5 日 目	必修科目 保健医療福祉の基礎理解 「社会資源活用」	要介護高齢者が活用しうる社会資源や、関係機 関等との連携方策を学ぶ。
6 日 目	必修科目 保健医療福祉の基礎理解 「人格の尊重及び権利擁 護」	権利擁護を担う介護支援専門員の基本姿勢を 確認するとともに、高齢者の権利擁護策につい て認識を深める。
	必修科目 保健医療福祉の基礎理解 「高齢者の疾病と対処及 び主治医との連携」	認知症高齢者や精神疾患を持つ人への対処方 法を学ぶ。要介護高齢者の疾病の特徴とその対 処法（治療・介護）、医療関係者との連携方法 を学ぶ。



◆専門研修課程Ⅱ・更新研修後期

研修内容		研修事項
1 日 目	介護支援専門員の 課題①	地域包括ケアシステムの構築における介護支援専門員の役割を確認する。
	介護支援専門員の 課題②	地域包括ケアシステムの構築における介護支援専門員の役割を確認する。
	サービス担当者会議 演習	サービス担当者会議の運営方法、職種間の連携方法に習熟する。
2 日 目	「居宅介護支援」 事例研究	自立支援、利用者本位の観点に基づく居宅サービス計画作成の視点・方法を学ぶ。
	「施設介護支援」 事例研究	自立支援、利用者本位の観点に基づく施設サービス計画作成の視点・方法を学ぶ。
3 日 目	「居宅介護支援」演習	作成した居宅サービス計画を持ち寄り、相互に意見交換しながら、支援困難事例を含む多様なケースを課題分析し居宅サービス計画の作成に習熟する。モニタリング、再アセスメント、居宅サービス計画変更の課程を学ぶ。サービス担当者会議におけるサービス事業者などとの連携方法を学ぶ。
	「施設介護支援」演習	作成した施設サービス計画を持ち寄り、相互に意見交換しながら、生活の質の向上及び継続性、在宅復帰の可能性等の施設特有の課題分析と施設サービス計画の作成に習熟する。モニタリング、再アセスメント、施設サービス計画変更の過程を学ぶ。施設における職種間の連携方法、施設外の資源の活用と連携方法を学ぶ。グループ事例検討の方法を学ぶ。

(カ) 指導講師

a 専門研修課程Ⅰ・更新研修前期

県担当者、県介護支援専門員協会、県医師会、県訪問看護協会、県ホームヘルパー協議会、県社会福祉士会等

b 専門研修課程Ⅱ・更新研修後期

県介護支援専門員連絡協議会、主任介護支援専門員、ケアマネジメントリーダー等

(キ) 受講者数

a 専門研修課程Ⅰ・更新研修前期

1組 59名（修了者 57名）・ 45名（修了者 45名）  
2組 68名（修了者 68名）・ 29名（修了者 28名）

b 専門研修課程Ⅱ・更新研修後期

1組 55名（修了者 53名）・ 62名（修了者 62名）  
2組 55名（修了者 54名）・ 68名（修了者 68名）  
3組 52名（修了者 52名）・ 62名（修了者 61名）  
4組 61名（修了者 63名）・ 50名（修了者 50名）

## イ 介護支援専門員更新研修（実務未経験）・介護支援専門員再研修

### （ア）目的

#### （更新研修）

介護支援専門員証に有効期限が付され、更新時に研修の受講を課すことにより、定期的な研修受講の機会を確保し、介護支援専門員として必要な知識及び技術の向上を図り、能力の保持を図ることを目的として実施した。

#### （再研修）

介護支援専門員として実務についていない者又は実務から離れている者が実務に就く際に、介護支援専門員としての必要な知識、技能の再修得を図ることを目的として実施した。

### （イ）実施主催

公益財団法人秋田県長寿社会振興財団（L L財団）

### （ウ）対象者

#### （更新研修）

研修対象者は、介護支援専門員証の交付を受けてから、その有効期間が満了するまでに介護支援専門員として実務に従事した経験を有しない者（以下「実務未経験者」という）で、介護支援専門員証の有効期間が1年以内に満了するもの。ただし、有効期間満了日後も実務に就く予定のない等で更新を希望されない方は、更新研修を受講する必要はない。

なお、有効期間満了日までに更新研修を修了されていない場合でも、再研修を受講し、新たに介護支援専門員証の交付を受けることにより、実務に就くことができる。

a 介護支援専門員証の交付を受けてから、その有効期間が満了するまでに介護支援専門員として実務に従事した経験を有しない者（以下「実務未経験者」という）

b 介護支援専門員証の有効期間中に、介護支援専門員として実務に従事している者又は従事していた経験を有する者（以下「実務経験者」という）

#### （再研修）

介護支援専門員として都道府県の登録を受けた者であり、登録後5年以上実務に従事したことがない者又は実務経験はあるがその後5年以上実務に従事していない者で、今後、新たに介護支援専門員証の交付を受けようとする者とする。

また、介護支援専門員実務研修修了後、相当の期間を経過した者及び介護支援専門員証の有効期間が切れた者についても、本研修の対象者となる。

### （エ）研修期日・会場

	期間	組	期 日	会 場
前期研修	3日間	1組 2組	平成26年7月10日（木）～12日（金） 平成27年1月9日（金）～11日（日）	秋田テルサ 中央シルバーエリア
後期研修	4日間	1組 2組	平成26年8月6日（水）～9日（土） 平成27年2月12日（木）～15日（日）	秋田テルサ 中央シルバーエリア

※ 1組目 8月9日のみ会場を中央シルバーエリアにて実施。

(オ) 研修内容

前期3日、後期4日の計45時間の研修を実施。

前期研修と後期研修の間に、要介護認定のための訪問調査や課題分析・居宅サービス計画原案作成について実習を行った。

[更新研修の主な内容]

- a 介護保険制度の基本理念、介護支援専門員の基本姿勢等
- b 介護支援サービスの基本、基礎技術・展開技術、要介護認定等の基礎
- c 対人援助技術、課題分析・居宅サービス計画に関する専門的知識及び技術
- d 地域包括支援センターの概要、介護予防給付マネジメント

(カ) 指導講師

介護支援専門員指導者並びに主任介護支援専門員等・県担当者

(キ) 受講者数

更新研修・再研修

1組 93名・72名

2組 24名・20名

#### 4 主任介護支援専門員研修の実施

(1) 目的

介護保険サービスや他の保健・医療・福祉サービスを提供する者との連絡調整、他の介護支援専門員に対する助言・指導などケアマネジメントが適切かつ円滑に提供されるために必要な業務に関する知識及び技術を習得することを目的として実施した。

(2) 実施主体 秋田県

(3) 運営主体 公益財団法人秋田県長寿社会振興財団（LL財団）

(4) 対象者

秋田県内において現に実務に従事している介護支援専門員のうち、介護支援専門員の業務に関し十分な知識と経験を有し、主任介護支援専門員に求められる役割を自覚し、今後その業務に携わる者として適格であるとして所属長の推薦を受けた者。

○研修初日の前日において、次の①から④のいずれかに該当し、かつ「介護支援専門員資質向上事業」（別添3）「介護支援専門員専門研修実施要綱」に基づく介護支援専門員専門研修課程Ⅰ及び専門研修課程Ⅱ又は（別添5）「介護支援専門員更新研修実施要綱」の3の（3）に基づく実務経験者に対する介護支援専門員更新研修を修了した者。

- ① 専任の介護支援専門員として実務に従事した期間が、通算して5年（60ヶ月）以上である者（ただし、居宅介護支援事業所の管理者との兼務は期間として算定できるものとする。）
- ② 「ケアマネジメントリーダー活動等支援事業の実施及び推進について」（平成14年4月24日 老発第0424003号厚生労働省老健局長通知）に基づくケアマネジメントリーダー養成研修を修了した者又は日本ケアマネジメント学会が認定する認定ケアマネジャーであって、専任の介護支援専門員として従事した期間が通算して3年（36ヶ月）以上である者（ただし、居宅介護支援事業所の管理者との兼務は期間として算定できるものとする。）
- ③ 介護保険法施行規則第140条の6第2号ハに規定する「主任介護支援専門員に準ずる者」として、現に地域包括支援センターに配置されている者。

なお、「主任介護支援専門員に準ずる者」とは、「ケアマネジメントリーダー活動等支援事業の実施及び推進について」（平成14年4月24日老発第0424003号厚生労働省局長通知）に基づくケアマネジメントリーダー養成研修を修了し、介護支援専門員としての実務経験を有し、かつ介護支援専門員の相談対応や地域の介護支援専門員への支援等に関する知識及び能力を有する者。（「地域包括支援センターの手引き」厚生労働省老健局より）

- ④ その他、介護支援専門員の業務に関し十分な知識と経験を有する者であり、秋田県が適当と認める者。具体的には以下のア)～ウ)のいずれかに該当する者。
- ア) 介護支援専門員としての実務経験が5年（60か月）以上あり、県が実施している介護支援専門員資質向上事業（介護支援専門員実務研修、介護支援専門員実務従事者基礎研修、介護支援専門員専門研修、介護支援専門員再研修、介護支援専門員更新研修、主任介護支援専門員研修）に講師として携わっている者であり、今後も講師として協力可能と見込まれ、指導的立場にある者。
  - イ) 介護支援専門員の資格を有する市町村職員で、市町村や在宅介護支援センター、地域包括支援センターにおいて地域の介護支援専門員に対する相談・支援等の業務に5年（60か月）以上従事した経験があり、市町村長が特に推薦する者。なお、介護支援専門員として実務に従事した期間も含む。
  - ウ) 介護支援専門員の資格を有し、現在、地域包括支援センターに配置されている保健師（準ずる者含む）または社会福祉士（準ずる者含む）であって、地域の介護支援専門員に対する相談・支援等の業務に5年（60か月）以上従事した経験があり、市町村長が特に推薦する者。なお、専任の介護支援専門員として実務に従事した期間も含む（ただし、地域包括支援センターにおける兼務および居宅介護支援事業所の管理者との兼務は期間として算定できるものとする）。

注) 上記の「介護支援専門員の実務に従事」とは、次の事業所において、介護支援専門員として就労し、サービス計画（介護予防サービス計画を含む）を作成していることをいう。したがって、認定調査業務や、利用者やサービス提供事業者等との連絡調整等の業務のみの場合は該当しない。

また、産休、育児休業、病気休業等で業務に従事していなかった期間がある場合は、その期間は実務経験期間に含まない。

<対象事業所・施設>

- ① 居宅介護支援事業所
- ② 特定施設入居者生活介護に係る居宅サービス事業者
- ③ 小規模多機能型居宅介護、複合型サービス、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護及び地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護に係る地域密着型サービス事業者
- ④ 介護保険施設（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設）
- ⑤ 介護予防特定施設入居者生活介護に係る介護予防サービス事業者
- ⑥ 介護予防小規模多機能型居宅介護及び介護予防認知症対応型共同生活介護に係る地域密着型介護予防サービス事業者
- ⑦ 介護予防支援事業者
- ⑧ 地域包括支援センター

(5) 研修期日・会場

主任介護支援専門員研修(10日間)

期 日	会 場	受講者数
平成26年 11月 6日(木)～7日(金) 15日(土)～16日(日) 12月 5日(金)～7日(日) 12日(金)～14日(日)	中央シルバーエリア	76名

(6) 研修内容

研修内容	研修事項
1日目 ケアマネジメントと介護支援専門員の倫理	○ 利用者主体、自立支援、公正中立、権利擁護、守秘義務、利用者ニーズの代弁等
ターミナルケア	○ ターミナルケアの基本理解 ○ ターミナルケアの課題(居宅・施設) ○ 利用者家族への支援方法 ○ 疾病の病態理解
2日目 主任介護支援専門員の役割と視点	○ 地域包括支援センターにおける主任介護支援専門員の役割 ○ 居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員の役割 ○ 包括的・継続的ケアマネジメント体制の構築 ○ 地域ケアマネジメント力の向上支援方策、関係機関とのネットワークの構築手法 ○ 地域における総合的なケアマネジメントの実施、調整手法 ○ 地域の介護支援専門員実態把握の手法 ○ 勉強会、技術向上を目指した「場づくり」の支援方策
3日目 人事・経営管理	○ 経営管理の基礎理論 ○ 経営戦略・マーケティングの手法 ○ 財務管理・経営計画の作り方 ○ 業務管理・目標管理の導入方法 ○ 業務評価制度と人事考課 ○ 雇用管理。労使関係の課題と現況 ○ 人材育成のための研修計画
リスクマネジメント	○ 高齢者が起こしやすい事故の内容 ○ 事例をふまえた苦情対応 ○ サービス事業者に求められるリスクマネジメントの目的と内容 ○ マニュアルの作成方法 ○ リスクマネジメントのケアプランの関係、反映手法

4 日 目	地域援助技術 (コミュニティ ソーシャルワーク)	○ 概念、機能及び目的、展開技法 ○ 主任介護支援専門員とコミュニティワーク ○ 解決困難な問題事例等を用いて、地域診断と不足するフォーマルサービス、インフォーマルサービスの開発普及
5 日 目	事例研究及び事例 指導方法	○ 事例を用いた指導手法のポイント ○ 指導における留意点 ○ 実際に指導する立場に立って相互に評価する ○ 講師の助言を得ながら、指導方法の向上を図る。
6 日 目		
7 日 目		
8 日 目	対人援助者監督 指導 (スーパー ビジョン)	○ スーパービジョンの内容と方法 ○ 介護支援専門員に対する適切な指導方法 ○ 個人スーパービジョンとグループスーパービジョンの具体的な技法の理解と向上
9 日 目		
10 日 目		

#### (7) 指導講師

主任介護支援専門員、学識経験者等

- 秋田総合労務管理事務所 特定社会保険労務士 猿田正幸 氏
- (株)インターリスク総研 事業継続マネジメントグループ  
上席コンサルタント 松岡伸輔 氏
- 秋田大学大学院医学系研究科保健学科専攻  
地域老年看護学講座 地域看護学分野 教授 中村順子 氏
- 秋田看護福祉大学 福祉学科 講師 吉田守実 氏
- 日本社会事業大学社会福祉学部 准教授 菱沼幹男 氏
- 特定非営利活動法人ふくし@JMI 理事長 小湊純一 氏

#### (8) 受講者数

76名(修了者75名に修了証明書を交付)

### 5 介護支援専門員研修委員会の設置・運営

介護保険制度の要として位置づけられる介護支援専門員について、介護現場において期待される役割を十分に果たすことができるよう、その支援方策、研修の進め方等について協議し、ケアマネジメントの質の向上及び地域ケア体制の構築の支援を図るため、6名の委員からなる秋田県介護支援専門員研修委員会(以下「委員会」という。)を設置し、介護支援専門員実務研修・現任研修等のカリキュラムの企画検討、研修事業のあり方等、当該事業全般のあり方及び方向性等の検討を行った。

## 介護支援専門員研修委員会

- (1) 委員名簿 別紙 6名  
委員長 佐藤哲彦 氏 (特別養護老人ホーム偕生園 施設長)  
副委員長 赤平京子 氏 (湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長)

### (2) 委員会開催状況

■平成26年5月2日(金)

- 内容 ア 介護支援専門員研修委員について  
イ 各種研修について  
(ア) 介護支援専門員実務従事者基礎研修について  
・「研修を振り返っての意見交換・ネットワーク作り」の今年度のテーマ  
(イ) 介護支援専門員専門研修課程Ⅱの内容について  
・介護支援専門員の課題①  
・介護支援専門員の課題②  
(ウ) 主任介護支援専門員のフォローアップ研修について  
・今年度のテーマについて

■平成26年11月22日(土)

- 内容 ア 平成26年度の現任研修の実績報告について  
イ 平成25年度の介護支援専門員実務研修「研修シート」の結果について  
ウ 今後の研修の見直しについて  
(ア) 平成27年度の実務研修・現任研修・主任研修について  
(イ) 平成28年度の実務研修・現任研修・主任研修について  
エ 介護支援専門員研修委員の任期について

## 6 これまでの課題と今後の方針

平成28年度から、実務従事者基礎研修の実務研修への統合や、専門研修課程・主任介護支援専門員研修の研修カリキュラムの見直し、主任介護支援専門員の更新性の導入など、研修体系の大幅な改正が予定されている。それに合わせた研修体制の検討や、関係機関への周知など、準備を進めることとする。

また、介護支援専門員実務研修受講試験においても、試験問題免除の廃止や、受験資格要件の改正など、制度が大きく変わることから、関係機関へ周知するとともに、円滑な事業運営に努めたい。

## 秋田県介護支援専門員研修委員

(任期) 平成25年4月1日～平成27年3月31日

No.	氏名	勤務先・所属名	職名
1	◎佐藤哲彦	特別養護老人ホーム 偕生園	施設長
2	○赤平京子	湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡	施設長
3	石川佐智子	(株) ぽぽろコンサルティング 県介護支援専門員協会	代表取締役 副会長
4	福本雅治	特別養護老人ホーム東恵園 県介護支援専門員協会	施設長 会長
5	小原 秀和	社会福祉法人あけぼの会 県介護支援専門員協会	統括本部長 副会長
6	長澤 利一	秋田けやき会居宅介護支援事業所	

◎委員長、○副委員長 (順不同、敬称省略)  
(勤務先・所属名、職名は平成27年3月末現在のものです)



平成26年度介護支援専門員実務研修演習指導講師一覧

1 組目 中央シルバーエリア (多目的ホール) 12グループ	
前期研修 平成27年1月10日(土)～11日(日)	後期研修 平成27年2月14日(土)
<b>2日目 1月10日(土) (10:30～17:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「アセスメント、ニーズの方法」 <b>3日目 1月11日(日) (9:30～16:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「居宅サービス計画等の作成」	<b>3日目 2月15日(土) (9:30～16:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「アセスメント、居宅サービス計画等作成演習」
演習指導者リーダー：特別養護老人ホーム偕生園 施設長 佐藤 哲彦 氏	
湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平 京子 氏	湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平 京子 氏
(株)ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川 佐智子 氏	(株)ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川 佐智子 氏
特別養護老人ホーム東恵園 施設長 福本 雅治 氏	特別養護老人ホーム東恵園 施設長 福本 雅治 氏
社会福祉法人あけぼの会 統括本部長 小原 秀和 氏	社会福祉法人あけぼの会 統括本部長 小原 秀和 氏
特別養護老人ホーム憩寿園 施設長 渡部 勝 氏	特別養護老人ホーム憩寿園 施設長 渡部 勝 氏
秋田けやき会居宅介護支援事業所 長澤 利一 氏	秋田けやき会居宅介護支援事業所 長澤 利一 氏
2 組目 中央シルバーエリア (多目的ホール) 16グループ	
前期研修 平成27年1月16日(金)～17日(土)	後期研修 平成27年2月20日(金)
<b>2日目 1月16日(金) (10:30～17:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「アセスメント、ニーズの方法」 <b>3日目 1月17日(土) (9:30～16:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「居宅サービス計画等の作成」	<b>3日目 2月20日(金) (9:30～16:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「アセスメント、居宅サービス計画等作成演習」
演習指導者リーダー：(株)ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川 佐智子 氏	
中通訪問看護ステーション 管理者 鎌田 百合子 氏	中通訪問看護ステーション 管理者 鎌田 百合子 氏
介護サービスセンター山王台居宅介護支援事業所 管理者 米川 譲 氏	介護サービスセンター山王台居宅介護支援事業所 管理者 米川 譲 氏
ひだまり居宅介護支援事業所 介護支援専門員 綿貫 哲 氏	ひだまり居宅介護支援事業所 介護支援専門員 綿貫 哲 氏
大仙市社会福祉協議会中央介護ステーション 所長 小笠原 深幸 氏	大仙市社会福祉協議会中央介護ステーション 所長 小笠原 深幸 氏
特別養護老人ホームすこやか大雄 係長 長山正弘 氏	特別養護老人ホームすこやか大雄 係長 長山正弘 氏
特別養護老人ホームすこやか森の家 主任生活相談員 小林悠希 氏	特別養護老人ホームすこやか森の家 主任生活相談員 小林悠希 氏
3 組目 中央シルバーエリア (多目的ホール) 14グループ	
前期研修 平成27年1月22日(木)～23日(金)	後期研修 平成27年3月6日(金)
<b>2日目 1月22日(木) (10:30～17:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「アセスメント、ニーズの方法」 <b>3日目 1月23日(金) (9:30～16:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「居宅サービス計画等の作成」	<b>3日目 3月 6日(金) (9:30～16:30)</b> 介護支援サービス(ケアマネジメント)の基礎技術 「アセスメント、居宅サービス計画等作成演習」
演習指導者リーダー：湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平 京子 氏	
(株)まんや社 代表取締役 佐藤 俊一 氏	(株)まんや社 代表取締役 佐藤 俊一 氏
羽後町社会福祉協議会 事務局長 佐々木 尚敏 氏	羽後町社会福祉協議会 事務局長 佐々木 尚敏 氏
介護老人保健施設なごみのさと 支援相談員 関谷 重昭 氏	介護老人保健施設なごみのさと 支援相談員 関谷 重昭 氏
介護の店 こもれび 施設長 武田喜代子 氏	介護の店 こもれび 施設長 武田喜代子 氏
医療法人杏仁会 居宅介護支援センター 川浪 妙子 氏	医療法人杏仁会 居宅介護支援センター 川浪 妙子 氏
大曲仙北広域市町村圏組合 ケアプラン点検委員 小松京子 氏	大曲仙北広域市町村圏組合 ケアプラン点検委員 小松京子 氏

平成26年度 介護支援専門員研修（実務従事者基礎研修、専門研修課程Ⅰ・Ⅱ、主任介護支援専門員研修）講師一覧

①実務従事者基礎研修

期 日	ケアマネジメントとそれを担う 介護支援専門員の倫理	対人援助技術	ケアマネジメントのプロセスと その基本的考え方	ケアマネジメント点検演習	研修を振り返っての意見交換、ネット ワーク作り
1組目 7月 1日（火） ? 4日（金）  2組目 10月 9日（木） ? 12日（日）	（講義）  1組・2組共通 ウェルビューいずみ 障害福祉サービスセンター 施設長 佐々木宏幸 氏	（講義・演習）  1組・2組共通 居宅介護支援事業所おおたき 管理者 伊藤政利 氏	（講義）  1組 湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平京子 氏  2組 （株）ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川佐智子 氏	1組 湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平京子 氏 大仙市社会福祉協議会中央介護ステーション 所長 小笠原深幸 氏 中通訪問看護ステーション 管理者 鎌田百合子 氏 ひだまり居宅介護支援事業所 綿貫 哲 氏 特別養護老人ホームすこやか大雄 係長 長山正弘 氏 特別養護老人ホームすこやか森の家 生活相談員 小林悠希 氏  2組 （株）ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川佐智子 氏 医療法人杏仁会居宅介護支援センター 川浪妙子 氏 特別養護老人ホームすこやか大雄 係長 長山正弘 氏 特別養護老人ホームすこやか森の家 生活相談員 小林悠希 氏	（講義・演習）  1組・2組共通 特別養護老人ホーム借生園 施設長 佐藤哲彦 氏

②専門研修課程Ⅰ・更新研修前期

期 日	介護保険制度論	ケアマネジメントとそれを担う 介護支援専門員の倫理	ケアマネジメントのプロセス とその基本的考え方	対人個別援助技術 （ソーシャルケースワーク）	選択科目 サービスの活用と連携 訪問介護・訪問入浴	選択科目 サービスの活用と連携 介護保険施設・認知症対応型 共同生活介護・特定施設入居 者生活介護
1組 5月29日（木） ? 31日（土） 6月12日（木）  2組 9月 4日（木） ? 6日（土） 9月15日（月）	（講義）  1組・2組共通 秋田県長寿社会課 介護保険班 担当者	（講義）  1組・2組共通 特別養護老人ホーム東恵園 施設長 福本雅治 氏	（講義）  1組・2組共通 湯沢市複合老人福祉施設 いさみが岡 施設長 赤平京子 氏	（講義・演習）  1組・2組共通 特別養護老人ホーム憩寿園 施設長 渡部 勝 氏 ひだまり居宅介護支援事業所 綿貫 哲 氏	（講義）  1組・2組共通 横手市社会福祉協議会 横手福祉センター東部指定訪 問介護事業所 管理者 米谷ゆかり 氏	（講義）  1組・2組共通 グループホームふなみ 管理者 成田啓悦 氏  1組・2組共通 社会福祉法人あけぼの会 統括本部長 小原秀和 氏

期 日	選択科目 サービスの活用と連携 訪問看護・訪問リハビリテ ーション	選択科目 サービスの活用と連携 通所介護・通所リハビリテ ーション	保健医療福祉の基礎理解 高齢者の疾病と対処及び主 治医との連携	保健医療福祉の基礎理解 人格尊重及び権利擁護	保健医療福祉の基礎理解 高齢者の疾病と対処及び主治医 との連携	保健医療福祉の基礎理解 社会資源活用
1組 6月12日(木) ? 14日(土)	(講義) 1組・2組共通 秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野 教授 中村順子 氏	(講義) 1組・2組共通 (株)ぽぽろ コンサルティング 代表取締役 石川佐智子 氏	(講義) 1組・2組共通 秋田大学大学院 医学系研究科 医学専攻病態制 御医学系精神科学講座 大学院生 高橋裕哉 氏	(講義) 1組・2組共通 秋田県社会福祉士会 権利擁護センターぱあとなあ秋田 副委員長 伊藤幹子 氏	(講義) 1組・2組共通 医療法人正和会 小玉医院 在宅医療連携拠点事業 管理者 菅原則次 氏	(講義) 1組・2組共通 特別養護老人ホーム松喬苑 施設長 佐々木生久夫 氏
2組 9月15日(月) ? 17日(水)						

③専門研修課程Ⅱ・更新研修後期

期 日	介護支援専門員の課題①	介護支援専門員の課題②	サービス担当者会議演習	居宅・施設介護支援事例研究
1組 6月 6日(金) ? 8日(日)	(講義) 1組・2組・3組・4組共通 特別養護老人ホーム偕生園 施設長 佐藤哲彦 氏	(講義) 1組・2組・3組・4組共通 特別養護老人ホーム偕生園 施設長 佐藤哲彦 氏	(講義・演習) 1組・2組・3組・4組共通 特別養護老人ホーム偕生園 施設長 佐藤哲彦 氏	1組 (居宅介護支援事例研究) 湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平京子 氏 (株)ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川佐智子 氏 大曲仙北広域市町村圏組合 ケアプラン点検委員 小松京子 氏 羽後町社会福祉協議会 事務局長 佐々木尚敏 氏 秋田けやき会居宅介護支援事業所 長澤利一 氏 1組 (施設介護支援事例研究) 特別養護老人ホーム偕生園 施設長 佐藤哲彦 氏 特別養護老人ホーム東恵園 施設長 福本雅治 氏 介護老人保健施設なぎさ 支援相談員 関谷重昭 氏
2組 7月31日(木) ? 8月 2日(土)				2組 (居宅介護支援事例研究) (株)ぽぽろコンサルティング 代表取締役 石川佐智子 氏 大曲仙北広域市町村圏組合 ケアプラン点検委員 小松京子 氏 介護老人保健施設なぎさ 支援相談員 関谷重昭 氏 秋田けやき会居宅介護支援事業所 長澤利一 氏 ひだまりサービスセンターひだまり居宅介護支援事業所 綿貫 哲 氏
3組 8月28日(木) ? 30日(土)				2組 (施設介護支援事例研究) 特別養護老人ホーム憩寿園 施設長 渡部 勝 氏 介護老人保健施設なごみのさと 副施設長 小原秀和 氏
4組 9月10日(水) ? 12日(金)				3組 (居宅介護支援事例研究) 湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平京子 氏 居宅介護支援事業所おおたき 管理者 伊藤政利 氏 秋田けやき会居宅介護支援事業所 長澤利一 氏 医療法人杏仁会居宅介護支援事業所 川浪妙子 氏

				<p>3組 (施設介護支援事例研究)</p> <p>ウェルビューいずみ障害福祉サービスセンター 所長 佐々木宏幸 氏          特別養護老人ホームすこやか大雄 係長 長山正弘 氏          特別養護老人ホームすこやか森の家 主任生活相談員 小林悠希 氏</p> <p>4組 (居宅介護支援事例研究)</p> <p>湯沢市複合老人福祉施設いさみが岡 施設長 赤平京子 氏          羽後町社会福祉協議会 事務局長 佐々木尚敏 氏          介護の店 こもれび 施設長 武田喜代子 氏          大仙市社会福祉協議会中央介護ステーション 所長 小笠原深幸 氏</p> <p>4組 (施設介護支援事例研究)</p> <p>(株)まんや社 代表取締役 佐藤俊一 氏          介護老人保健施設なぎさ 支援相談員 関谷重昭 氏</p>
--	--	--	--	--

④主任介護支援専門員研修

期 日	ケアマネジメントと 介護支援専門員の倫理	ターミナルケア	主任介護支援専門員の役割と視点	人事・経営管理の基礎知識
11月 6日(木) 7日(金) 11月15日(土)	(講義) ウェルビューいずみ 障害福祉サービスセンター 所長 佐々木宏幸 氏	(講義) 秋田大学大学院医学系研究科 保健学科専攻地域老年看護学講座 地域看護学分野 教授 中村順子 氏	(講義) 東通地域包括支援センターひだまり 所長 米谷 充 氏 外旭川地域包括支援センターコネク 管理者 石塚正紀 氏	(講義) 秋田総合労務管理事務所 特定社会保険労務士 猿田正幸 氏

期 日	リスクマネジメント	地域援助技術 (コミュニティソーシャルワーク)	事例研究及び事例指導方法	対人援助者監督指導 (スーパービジョン)
11月15日(土) ? 16日(日) 12月 5日(金) ? 7日(日) 12日(金) ? 14日(日)	(講義) (株)インターリスク総研 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 松岡伸輔 氏	(講義) 日本社会事業大学社会福祉学部 准教授 菱沼幹男 氏	(講義・演習) 秋田看護福祉大学 福祉学科 講師 吉田守実 氏	(講義・演習) 特定非営利活動法人ふくし@JMI 理事長 小湊純一 氏